

福音書に記されているイエスの復活に関する記事は初代教会に伝えられた伝承、墓が空っぽだった、イエスの遺体がなかったという伝承と神さまにより死人の中から復活させられたイエスが婦人たちや弟子たちに姿を現したという伝承、に基づいています。これら二つの伝承は独立した別々のものと考えられ、イエスは十字架につけられて殺された、死んでいるという経験とイエスは生ける者として私たちに現れた、生きているという経験に基づくものです。この二つの経験はどちらもそれを経験した人にとっては全く疑う余地のないほど明らかなものでした。そのことはイエスが逮捕された時に逃げ去った弟子たちが、復活させられたイエスに出会うことによってイエスこそキリストであると宣べ伝えはじめたことによっても示されています。そして、この二つの経験をつなぐものが、「神さまはイエスを死人たちの中から起こした」という復活信仰告白なのです。

今日の箇所ではこの二つの伝承が結合されています。マグダラのマリアの知らせを聞いてペトロと共に墓に来たもう一人の弟子は遺体がないのを見て、イエスが復活させられたことを信じます。しかし、二人はまだイエスの復活という出来事が何であるか、自分とどう関わるのかという意味では理解してはいませんでした(9節)。そのため、彼らはイエスの復活を人々に伝えませんでした。一方、マグダラのマリアは墓の外に立って泣いていました。今日の箇所で「どこに置かれているのか、分からない」という彼女の言葉が3回繰り返されています、彼女はイエスの体がないことにこだわり続けていました。イエスが近寄ってきた時、彼女は後ろを振り返り、誰かがそこに立っているのを認めるのですが、誰であるかわかりません。イエスはマリアに、「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを探しているのか」と問います。「だれを探しているのか」とは「あなたを探している者はここにいる」という意味です。イエスが「婦人よ」ではなく、「マリア」と呼びかけることによりマリアはすぐそばにいるイエスに気がきます。肉体の死によって断たれた人格的な愛と信頼の交わりが回復したのです。イエスは「わたしにすがりつくのはよしなさい」と言いました。生前のイエスと目の前の復活させられたイエスとを区別できないマリアに対して「私は父なる神のもとへ上っていく者だ。もう以前のように直接接触ったり、話したりすることはできない。あなたは私に気付かなかったが、私はあなたと共にいた。そのことを信じて生きていくのだ。」と言ったのではないのでしょうか。

マリアへの顕現物語は、イエスは死人の間にはいず、生きている者と共にいることを強調しています。イエスは歴史的人物だけでなく、復活させられて今も生きて働き、私たちと共にいるのです。私たちはそのイエスと出会ってしまったが故に、イエスの復活を信じているのです。